

科学研究費助成事業（特別推進研究）研究進捗評価

課題番号	20002010	研究期間	平成20年度～平成24年度
研究課題名	コンデンシンによる染色体構築の分子メカニズム		
研究代表者名 (所属・職)	平野 達也 (独立行政法人理化学研究所・平野染色体ダイナミクス研究室・主任研究員)		

【平成23年度 研究進捗評価結果】

該当欄		評価基準
	A+	当初目標を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	当初目標に向けて順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	B	当初目標に対して研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	当初目標より研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である

(評価意見)

本研究は、染色体の構築と分離に重要なコンデンシンの発見者の一人である研究代表者が、コンデンシンの分布を規定する染色体因子の同定、コンデンシンの細胞周期制御の解析、コンデンシンの分子活性・分子構造の解析、という3つの目標に取り組むものである。特に、研究代表者らが明らかにした2種のコンデンシン複合体が染色体構築においてどのように機能分担しているかを中心に、目標に向かって研究を進めている。研究に用いられている個々の方法論は合理的なものであり、また、研究代表者が着実に歩を進めようとしている姿勢は十分に感じられることから、総体としては当初目標に向けて順調に研究が進展していると評価する。ただし、研究グループの規模に比して研究計画が広がりすぎているのではないかと、あるいは研究の進め方をもう少しスピードアップする工夫はできないかと、とする懸念もあるが、それぞれの目標に対して本研究期間内に相応の成果が得られるように今後の研究展開を期待する。

【平成25年度 検証結果】

検証結果	本研究は、遺伝情報の発現と継承に必須の染色体の構築と分離のメカニズムについて、その中心的役割を担う分子であるコンデンシンの機能に焦点を合わせ、染色体ダイナミックスの総合的理解を目指す研究である。多面的な研究手法を駆使して、コンデンシンの分布を規定する染色体因子の同定、コンデンシンの細胞周期制御の解析、コンデンシンの分子活性・分子構造などで十分な成果を上げ、トップジャーナルへも論文を公表している。
A	以上のことから、当初目標どおりの研究成果を上げたと判断できる。